

(仮称)自治基本条例を考える会

(会議要旨 第20回 全体会議)

日 時：平成 21 年 2 月 28 日 (土) 13:30 ~ 16:00
場 所：ファッションデザインセンター
出席者：自治基本条例を考える会委員 17 名
ファシリテーター 石井伸弘 氏
事務局 (企画政策課職員) 3 名

1. フォーラム実施の感想

- ・ フォーラム、タウンミーティングに毎回同じような進行をしてきたが、十分意見交換できたように思わない。少し心残り。
- ・ そもそも意味があるのかという意見と、よく分からないという意見と、大きく 2 つあったように思う。前者については時間があればきちんと理解してもらえらるだろう。後者については、もっと勉強してもらいたいと思う。
- ・ アンケートは 1 万件とろうということだった。約 3,000 件で、当初の目標に届いていない。
- ・ 一般の方と議論する時間が足らなかったかと思う。
- ・ フォーラム参加者から手紙を頂いた。フォーラムの時間設定が短く、参加人数が少ない。また、コーディネーターが 80 人で満足しているというのもおかしいのではないかという意見だった。
- ・ 参加している人は、ここで意見を言えば提言内容が変わると考えていたようだ。われわれはここで提言書の完成版をお披露目するというイメージだった。そのズレも指摘された。
- ・ ちゃんと説明しようと思ったら 1 時間、2 時間かかる。でも、その人はそれを理解して、他の人につなげてくれた。市民の中にも熱い人がいる。これからはそういうことが大事ではないか。
- ・ フォーラムに聴覚障害の方をお連れした。福祉とか障害に対する施策について市長と話し合える場と思って来たようだ。内容が難しいとのコメントを頂いた。
- ・ 市長が「これからスタートする」とおっしゃったが、そのとおりだと思う。
- ・ 自治基本条例という言葉に過剰な期待を寄せすぎていたかもしれない。自分自身、ちょっとずれていたかなと思う。「ポイ捨て」を条例で何とかしようと思っていたが、今は自分でごみを拾おうかなと思う。
- ・ アンケートで、どの項目も「分からない」「重要でない」と答えている方がいる。非常に情けない。
- ・ 若い議員と議論するとよく話が通じるが、4 期、5 期やっている議員と議論すると、ちっとも通じない。一宮は田舎なんだなと思う。果たして、この条例案に賛同してくれる議員がどれだけいるのかという疑問を抱いている。われわれが苦勞して作成した提言がどれだけ残るのか心配だ。議会制民主主義だから、それは仕方がないのだけれど。
- ・ 地方自治とは何か、ぜんぜん分からなかった。この 1 年をかけて、だいぶ理解した。38 万都市の理想像を今出しておかないと、と考えて参加しようと思っていた。次の世代に、「これだ

け一宮はすばらしいところだよ」というつもりで参加した。

- ・ 立派な仏像はできた。運用するときの魂をどう入れていくかで結果は異なってくる。運用に対して注目していきたい。
- ・ 平成 17 年に合併した。一宮のことを知ろうとしてきたが、木曽川のシステムと一宮のシステムはだいぶ異なっていた。平成 21 年度から一宮システムとなると、だいぶ抵抗があるようだ。連区を変えようと思っても、1 年で役員が変わる仕組みだとあまり期待できない。その分、木曽川に 84 ある町内会を変えていこうと思う。町内会が連区の中でばらばらになっているのを連区ごとに統一するために、木曽川で条例を生かしてやっていきたい。
- ・ アンケート集計だけ見ると、20 代・30 代の方の意見がもっと聞けるとよかったかなと思う。若い人がもっとまちづくりに参加してくれるようになるといいと思う。
- ・ 条例作りに参加して初めて、市がやっていることに関心を持てるようになった。今回参加した人は関心を持ち続けられると思うが、考える会という場がなくなっても、市民に広げることが何とかできないかと思っている。
- ・ アンケートに 10 代の中学生が 100 名くらい協力してくれた。今後も期待したい。
- ・ 「重要だ」と回答しても、何をやっていけばいいかわからない人が多いと思う。条例がそのきっかけになればいいと思う。
- ・ 何らかの活動をしていることをぶつけることが大事で、そこから共感は生まれるのだということを感じている。一朝一夕にはできないと思っているが、この思いを冷まさないようにしていきたい。
- ・ 市民活動支援制度の投票率が約 10% となったそうだ。すごく高い。自慢できる数字だと思う。
- ・ 自治基本条例全体については、抹茶茶碗の抹茶が考える会で、提言は泡だろうと思う。泡だと消えるのも簡単だけれど。
- ・ 今後、心の病に悩む人も増えてくると思う。こうした人を支えていく仕組みがいるだろうと思う。
- ・ 日当で生活している職人さんなどは、こういったことに参加しづらい。結果、声がほとんど反映されていないと感じている。
- ・ 障害者の立場で意見を言いたいと思って参加したいと思った。私自身は間に合わなくても、次の世代の障害者が発言できることにつながれば、市政のことを勉強させてもらえればと思って参加させてもらった。感謝している。
- ・ 現場に近いことを決めるのかと思っていたので、最初は戸惑った。骨組みがだんだんできていくと、これから始まるのだと思って、だんだんに頭を切り替えた。公民館活動などで、もっと発言できるとよかったかなと思う。
- ・ 最後のタウンミーティングのときに、若い人が集まって議論できる場が欲しいという意見があったが、そう思う。
- ・ フォーラム参加者が 80 人だったのは確かに少ないと思う。もっと知ってもらい取り組みが必要だろう。これをいかに若い人につなげられるかが大事だと思う。市民がそういった取り組みを積み重ねていかなければと思う。
- ・ 議員への信頼が失われているという意見があったが、議員を選んでいるのは私たち。次の選挙ではよりよい議員を選ぶことが大事だ。前向きな方を議会に送り込むことが大事だと思う。
- ・ 条例が出来れば、目に見えないところで動き出すと思っている。私自身、4 月以降に何を

かといえば、町内会でお金が余っているので、自分で手を上げて、防犯のための車両の購入などに当てたらどうかという提案をした。そうしたら、4月の総会で、3役が中心になって、防犯パトロールを立ち上げるような動きになっている。私自身もその役に就く準備があるということを申し上げた。

- ・ 委員が、それぞれ自分の地区でそれぞれ小さな活動でいいので、何か動き出すことが大事だと思う。これから動き出すということではなく、既に動き出しているのかなと思う。自ら町内会総会で発言することは変な人だと思われるが、変な人が増えてくると、一宮がいいまちになるのではないかなと思う。ぜひ、変な人になって欲しい。
- ・ 最初の思いと違いがあることに気づいたことはとても大事なことだと思う。すばらしい1年だったのではないかなと思う。
- ・ これから、条例化の進展がまちづくりにどのように活かされているのかは厳しく見守っていかねばと思う。

2. アンケート結果に関する意見交換

- ・ 資料のアンケート結果についてファシリテーターより説明が行われた。
- ・ 目標1万枚だったにせよ、出向いて、約3,000枚集めたのはすばらしいと思う。

3. 提言書の確定

- ・ 第5章3項 主体 主役に変更

4. 3月14日 全体会の進行について

前半の1時間について

結論

- ・ 会長挨拶、市長手渡し、市長から挨拶、市長と委員の懇談会
- ・ 司会 柴田さん
- ・ 松下教授には、懇談会の中で、他の自治体で失敗した事例など、条例化するにあたっての市長へのアドバイスのようなコメントをお願いする。
- ・ お互いに、前向きになれるような意見交換をする。

意見交換

- ・ 前半2時から、1時間程度は市長にお越しいただいて、提言書をお渡ししたい。
- ・ 流れとしては、市長に手渡し、市長コメント、松下先生コメント、委員コメント、といったもので考えている。
- ・ セレモニーっぽいのもういい。市長も一回見ているのだから、市長に聞きたい。オフィシャルなコメントだけ聞くのもういいかなと思う。
- ・ 今後のスケジュール、どう扱うのかなど、市長の口から聞きたい。
- ・ 市長の任期の間に決めたいということだが、市長が変わったらどうなるのかも聞きたい。
- ・ せっかく市長が来るのであれば、市長と意見交換したい。
- ・ 市長は考える会に諮問している。われわれはそれに対して答えた。市長がそれに対して回答する必要があると思う。

- ・ この条例提言について、議論したい。
- ・ 意見交換するのであれば、考える会側の意見も統一しておいた方がいいだろう。
- ・ バラバラの意見であればそれはそれでいいかもしれない。
- ・ われわれの思いをきちんと伝えたい。
- ・ 検討委員会のようなものに、この委員会から 2 名くらいは参加できるのか。参加できるなら、その方を通じて意見を伝えることができる。
- ・ (事務局から) 考える会から何名かは参加できる。3 月 14 日の会議では、概要をお伝えできる。
- ・ 市長のつるし上げにはならないように。前向きな意見交換を。
- ・ (事務局から) 検討会は当然、公開。傍聴可能である。

市長が退席した後の時間について

結論

- ・ 市民活動支援制度に応募した 70 団体に対して、約 10%の市民が応援している。この 70 団体を中心に、町内会の方にもおいでいただいて、まちづくりの核となつてともにやりたいというエールの交換を行う。
- ・ ご連絡して、来ていただける団体のみに来ていただく。
- ・ 町内会の関係の方には、委員のお知り合いの方へ、委員からお誘いする。
- ・ NPO の 70 団体には会長名で企画政策課から提言書を同封し発送する。

意見交換

- ・ 70 団体に対して、約 10%の市民が応援している。70 団体を中心に、町内会の方にもおいでいただいて、まちづくりの核となつてともにやりたいというエールの交換をしたいと思っている。
- ・ 70 団体の中身も、身内で票を固めたところがある。予定票よりすごく増えているところもある。共感を受けているということ。そういった団体を中心に来てもらいたい。
- ・ むしろ、身内票を集めている団体にお越しいただきたい。
- ・ 団体にしてみると、この条例は一般論しか書いていない。ボランティアグループはほとんどまちづくりの意識がない。まちづくりを意識している団体は 10 くらいしかないのではないかな。
- ・ 来てもらって懇談して、話し合うことはとても大事なことだと思う。
- ・ 輪を広げていくことになる。

考える会の今後について (結論は次回に)

- ・ 検討会議が開催される際には、元考える会委員にぜひ傍聴の案内が欲しい。
- ・ このままさようならでは寂しい。
- ・ お茶会みたいなものでいいから、検討委員会の報告会のようなものを定期的に (3 ヶ月に 1 回くらいでいいので) やれたらいい。